

宮池 (みやいけ)



諸元

貯水量	320.0 千m ³
満水面積	5.2 ha
受益面積	75.0 ha
堤高	13.7 m
堤長	465 m

七宝山の麓に位置する宮池は慶安3年（1650年）の築造と言われ、旧比地大村と旧下高野村の約75haの農地を潤しています。山麓の傾斜地に築造されているため、堤防が非常に高く、堤幅も広い池です。池の上流には柳池・則定池・四郎右衛門池・かがつ池・新田池・砂留池など小さな池がたくさんあり、宮池の中にもいくつかの小池があったようで、それらを取り込んで造成したものと伝えられています。池名については、隣接する宮山に熊岡八幡宮のお社があるので「宮池」と呼ぶようになりました。

宮池の用水は旧比地大村と旧下高野村の2つの地域へ配水されるため、水利調整に苦労したようで、水利慣行に関する古文書が数多く残されています。

これまで幾度も改修が行われてきましたが、堤防の老朽化や余水吐の能力不足のため、昭和45年（1970年）から県営大規模老朽ため池等整備事業により全面改修し、昭和47年（1972年）に完成しました。また、平成27年からは、大規模地震に備え下流住民の安全確保のため、堤体の耐震化補強工事を行い、現在に至っています。

毎年10月には、宮池の堤防で秋祭りが開催されるなど、地域住民にとって欠かせない池として親しまれています。



宮池



改修記念碑